

2022年度業務実績報告書

提出日 2022年12月21日

1. 職名・氏名 教授・石丸香苗

2. 学位 学位 農学、専門分野 森林生態学、授与機関 京都大学、授与年 2005

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ(なぜから考える科学) (2単位) 1年	
②内容・ねらい（自由記述） 自然科学・社会科学ともに、科学の基本は疑問を持って、それを確かめたいという気持ちから始まります。このゼミでは、なぜ?の気持ちを持つ練習をします。目標①なぜ?という気持ちを持つことに慣れる②なぜ?と思った事について調べる力を身に付ける③なぜ?から真実に至るプロセスを正しくたどれる力や方法の基礎を身に付ける。	
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） コロナ世代のためか、大学生活への移行に不安が多い学生が多いようであったので、ガイダンスに時間を割いた。今年度から導入ゼミの共通資料や共用図書ができたので、それらも積極的に活用して行った。ディスカッション・グループワークやフィールドワークなどを取り入れ、図書館の利用も積極的に行い、自主性を重視した授業開発を行った。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ(エシカルな社会を考える) (2単位) 1年	
② 内容・ねらい（自由記述） 途上国や格差など、社会問題の根幹にある原因や、自らの行動により引き起こされる結果を想像し、より倫理的(エシカル)な社会のあり方を考えます。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義室だけでなく、図書館や情報演習室なども含みながら、ゲーム形式のシミュレーション、グループディスカッションや個人のワーク、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングを積極的に取り入れた。スピーチや文献調査・文献管理、レポートやメールの書き方など、能動的に大学の学業を深める力を付けられるよう工夫をしている。	
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 地理学(2単位) 全学年	
②内容・ねらい（自由記述） 地理学は自然や社会を「空間」という視点から扱う、幅広く柔軟性の高い学問である。本授業では地質や気候などの自然や資源、人間の生業や文化などが、空間という視点からどのように関係づけ、整理・分析され、傾向や真実を見出すことが出来るのかを学ぶ。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 地理の情報を得るだけではなく、情報を空間的に整理してものごとを理解・推測できるような力を得られるように、授業の合間に小テストや質問を挟んでいる。小テストとふりかえりには毎回コメントを付して返却し、学習ポートフォリオとして期末レポートの参考に役立つようにしている。授業には折り紙を使った地形図の理解や、ビデオなど、飽きずに理解しやすい工夫をしている。また、取り上げる話題も、福井や海外、身の回りの事柄から世界の生活、宗教や言語と地理学など多岐にわたる分野を扱い、地理学のコンセプトが理解できるようにした。授業は講義形式以外に兼定島でのフィールドワークや、世界が100人の村だったらワークショップなど、体も動かせるタイプのアクティブラーニングを取り入れた。ゲストスピーカーも呼んだ。	

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 南米の社会と環境 (2 単位) 全学年
② 内容・ねらい (自由記述) 環境問題の生まれる原因には、社会の様々な要因が関係している。よって環境問題の解決には、社会の根本的な規範の変化や消費行動の見直しなど人間の積極的な関与が必要になる。同時に問題の原因の究明のためには、その社会構造・経済状況・自然地理・歴史といった、その問題が生みだした様々な背景について理解しなくてはならない。本科目では、ブラジルという偉大な資源と自然を擁する大国をテーマに取り上げ、人間の社会が環境問題にどのように結びついていくかについて考える。また、ブラジルをとおして、環境が人の文化や風習に与える影響についても考える。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 論理的思考力を持つ・授業内容への興味を持たせることを目的に、講義前に小テストを行っている。テストは正解・不正解ではなく、得られた情報からどう考えて判断したかを評価する。先住民族の工芸づくり体験、ブラジルの福井村で国際協力に関わったゲストスピーカーによる現地のお話などを行い、アクティブラーニングを取り入れて設計している。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報基礎演習 (1 単位) 1 年
② 内容・ねらい (自由記述) パソコンに関する基本的知識と技能を習得する。タイピング、ワープロ、メール、情報検索、プレゼンテーション技法、ホームページ作成の課題について自主的に学習する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 入学前の習熟度がバラバラであるため、一人ひとりに目を配るように気を付けている。今年度はオンラインで進行状況が見えないため、提出物の遅い学生などにはメールでのケアを例年以上にしっかりと行った。今年度からデータサイエンスの単元が創設された。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 学術ゼミ (地域研究) (2 単位) 2-4 年
② 内容・ねらい (自由記述) 社会と環境のつながりについて考え、世界と日本の状況を総合的に見渡すことが出来る能力をつけ、持続可能な社会実現にどのような行動が必要かについて、自分の意見を持つことが出来る。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) 教科書を用いた講義だけではなく、教科書をテーマにした討論をベースにした。フィールドワーク・ゲストスピーカーも多用した。授業各回の後に意見を書いてもらい、教員が返すポートフォリオのような効果を期待した交換日記を作成した。インプットとアウトプットのバランスを意識して、教科書や FW などのインプットに対して、かならず話し合いや意見を書くなどのアウトプットをペアにして、自分の意見の形成を促した。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 情報処理 A (2 単位) 全学年
② 内容・ねらい (自由記述) 映像制作(企画・撮影・編集)の作業や出来上がった作品の相互評価を通して、情報の収集・整理・表現といった広い意味での情報処理能力の向上を目指した。本年度は県内企業のPR動画の作成を行い、授業を通じた県内企業の魅力の発見も目的とした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述) ソフトウェアの使用方法を学ぶだけではなく、表現力やコミュニケーション力なども映像作成をとおして涵養できるように、企業とのやり取りは学生が行い、インタビューの方法や、CMなどの意図、著作権、ビデオやドローンの使用方法などを取り入れた授業設計を行った。出来上がった作品は学生相互の評価を取り入れ、最終回にオープンハウスとして上映している。
(2)その他の教育活動
内容 総合農学・食農環境実習(創造農学科) ゲストスピーカー8 コマ

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書 現代ブラジルの思想、2022 年、現代企画室、分担執筆(第 15 章)	【1 本】
② 学術論文 (査読あり)	【0 本】
③ その他論文 (査読なし)	【0 本】
④ 学会発表等 近年のブラジル土地改革および小農の動向、日本ラテンアメリカ学会大会 2022 年 6 月 5 日	【1 件】
⑤ その他の公表実績 アマゾン熱帯林のローカルガバナンス、ラテンアメリカ・カリブ研究所講演会 2022 年 11 月 26 日 ブラジル都市近郊域における小農の農業生産について、第六回日伯文化環境研究会 「持続可能な人間環境：ブラジルの都市と都市周辺の例から考える」 2022 年 7 月 4 日 FESTOON 2022 春/エリ・リャオと仲間たちが贈る春の花綵列島 文化祭 台湾～宮古島～北海道編 2022 年 4 月 9 日	【3 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 科研費基盤(B)(継続)アマゾンの森を脆弱化させたのは誰かーブラジル環境・開発政策の影響の科学的検証(課題番号 20H04427)、2020 年度～2023 年度、1287 万円	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
アンデス・アマゾン学会運営委員(編集担当委員)	

5. 地域・社会貢献活動

①-2 福井県森林審議会 委員 2020年10月~現在に至る

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
ハラスメント対策委員会委員 2020年度~現在
(3)学内行事への参加
履修相談会(対面)・履修登録指導(オンライン)
(4)その他、自発的活動など